

項 目 名	安全ベルト使用 改良衣着用
表 題	トイレでの排泄が可能になった事例
施 設 名	老人保健施設あすか（介護老人保健施設）

1 利用者の状況

年齢 86 歳 性別 女 要介護度 痴呆性老人の日常生活自立度 B 1 痴呆度

【病名（既往症）及び病状】

老人性痴呆 脳梗塞後遺症・・・平成 11 年 5 月より入所中平成 12 年 1 月 ADL の低下、傾眠状態となり病院受診、脳梗塞の診断入院治療となる。

2 施設内の生活における現状や課題

【身体的な状況】

- 脳梗塞後遺症による不随意運動がかなりみられる
- A D L 食事・・・どうにか自立、排泄・・・トイレ誘導半介助、入浴・・・半介助、他起居移動動作・・・ほぼ半介助

【痴呆の状況】

- 歌が大好きで、所かまわず歌う。（童謡） HDS - R 0/30 点

3 拘束に至った経過や原因と考えられるもの

病院にて脳梗塞治療のため、膀胱留置カテーテル留置、痴呆によるものと不随意運動が激しい事により自己抜去の恐れあり、安全確保のため、改良衣着用となったと思われる。その後オムツ対応となるも、オムツをはずす行為もあり改良衣の着用となっていた。（平成 12 年 3 月 6 日再入所となる。）

4 ケアカンファレンスでの意見や協議内容

- 平成 12 年 11 月 30 日 カンファレンス施行
- 担当者

ベット上での体動激しく、柵の間より足を出し端座位になったり、降りようとされることがあるので、転倒の危険性があり床対応とする。

夜間尿意を訴えるようになり、トイレに行こうとされるような行動も見られたため、排泄介助を試みることにしたが、体動が激しく、車椅子よりの転倒の危険性があり、安全ベルトを施行し車椅子での移動、トイレでの排泄介助とした。いざ施行してみると、見守り程度で排泄動作は可能であった。その後より尿意がはっきりし始めたのか、オムツをいじり、自分はトイレに行ったつもりで、床等に排泄される事が多くなった。しかし衣類等の尿汚染あり、そのため更衣とするも、不随意運動により、抵抗されるような行為もあり、改良衣の更衣介助にはかなりの時間を要する。まだ考慮中であるが、上下服としトイレ誘導トイレでの排泄にむけてのプランとして考えて行く方向である。

- N s（ケアマネ）

不随意運動があるため、トイレ誘導の際転倒の危険性があるのでは？

- D r

脳梗塞後でありながら、Kさんの ADL の向上はすごいと思う。不随意運動があるため、転倒の危険性は考えられるが、トイレでの排泄が出来るかどうかは、介護次第だと思ふ。又家族の意向はどうかだと思ふ。

- リハビリ P T

オムツをとりトイレに座る事で排泄への意識レベル Up につながると思える。まめな声掛けと本人の排泄パターン、介助方法がわかれば、トイレでの排泄可能と思われる。

- N s（ケアマネ）

短期間を目標とし開始してみてもどうか。介護力の軽減にもなりうる。なにより本人も快適になり良いと思われる。

●担当者

1ヶ月を目標に上下服とし、トイレでの排泄を実施するプランとする

5 拘束廃止に取り組んだ過程や取り組み状況

上下服にきりかえるため、御家族にプランの説明を行い衣服の御持参の依頼をする。同時に紙パンツとする。定期的なトイレ誘導の開始とする。声掛けに対し「今はない」と言われる。しかし2人介助で取りあえずトイレに座って頂く事とする。トイレにて排尿みられる。まめに声掛けを行い同じケアを何度も繰り返す。夜間タイミングが合わず布団の上に座り込み排尿される事もある。トイレでティッシュを渡して見ると自分で後始末が出来る。またズボンの上げ下げにおいても自分でされようとする。一人でフリー歩行をされるようになり、「しーこがしたい」と尿意をしっかりと訴えるようになる。転倒の危険性があるため、安全ベルトの使用としたが、自分でうまくはずれられるため見守り強化し施行中止とした。

6 改善の成果

現在もトイレ誘導を行いトイレでの排泄としている。トイレでの排泄を試みるようになり、表情が豊かになり、発語も多くなった。またコミュニケーションをとるたびに会話も成り立つようにもなる。何より良かったのは、ADLが向上するたびに御家族は驚かれとても嬉しいですと喜ばれ面会の回数が増えた事である。

7 担当職員の感想、意見

トイレでの排泄が出来たらなぁと、なにげに思った事から始まったプランである。当初は本当に出来るかなぁと不安があった。しかしだめもとでやってみようとしてチャレンジすることとし、トイレで排泄が見られた時とても嬉しかった。放尿等もあり大変な事もたくさんあったが、すべてのことにおいて、私たちは出来ないときめつけてしまうのではなく、小さな事からでもその芽を伸ばしていくケアを行なうことによりADLの向上にもつながって行くのではないかと思う。またスタッフの協力がなければ出来なかったと思う。

今回の拘束廃止という問題に取り組み人が人らしく生きて行く上でとても大切なことを学ぶ事ができた。